

サケ

10年で670万尾放流

回帰は6年で2千尾

児童に見送られ 北洋の旅へ

「大きくなって帰って来いよ、ここでまた逢おうね!」子ども達の思い思いの夢を託して、小雨降る3月15日、栗山川の横芝堰で、恒例のサケの稚魚の放流が行われました。

この日放流されたのは、県内水面水産試験場がふ化させた体長5〜6センチメートルに育つ

た稚魚100万尾で、北海道産にまじって昨秋栗山川で捕獲されたサケの子5万尾も含まれての放流になりました。

参加した横芝、大総小学校など300人余りの児童達は、これから永い旅路へと立つかわい

いサケつ子をいたわるように水面に放し、いつまでも熱い声援を送っていました。

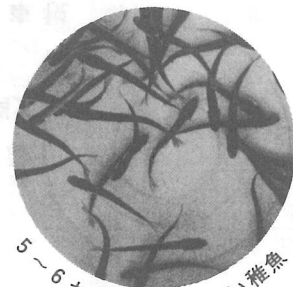
ロマンを求め・・・

回帰は順調 成果は向上き

漁業資源の開発とサケ回帰南限への排戦といった大ロマンを求めて、県が栗山川に稚魚の放流を始めたのが昭和52年の厳冬で、この年はわずか1万7千尾でした。その後年毎に数を増やし、59年には102万尾、10年目にあたる今回で670万尾も

元気でねー / 雨の中の放流

待望のサケが回帰したのは稚魚放流5年目の昭和55年。栗山川にサケ回帰のビッグニュースは全国に報道され、一躍栗山川と横芝町の名は広く知られるようになりました。この年は25尾でしたが、58年のシーズンには1000尾台も夢ではない、と大きな期待がかけられるほど大量に回帰。昨シーズンまでで約2000尾の回帰が確認されています。



5〜6センチのかわいい稚魚

〔捕獲数の推移〕

年度	栗山川	夷隅川	海面・他	合計
55	25	6	28	59
56	170	119	256	545
57	57	9	25	91
58	770	84	345	1,199
59	331	70	829	1,230
60	497	79	253	829
合計	1,850	367	1,736	3,953

サケのふるさと 栗山川をきれいに

これからもサケの稚魚放流事業は続けられますが、サケが清らかな母川を求めてたくさん帰ってくるように、栗山川の浄化に努めましょう。

農作物等に 被害甚大

被害甚大

3月23日の日曜日、発達した低気圧の影響で、関東地方から甲信地方にかけての広い範囲で強い風雨と時期はずれの雪に見まわられました。空の便の欠航、鉄道等の交通網の寸断、建造物の破損、また、停電や断水など各地で大きな被害をこうむりました。

時ならぬ春のあらし

◆横芝町では、降雨量は93ミリ(24時間)、最大瞬間風速が26・3メートルを記録、また、高台の大総方面では4〜5センチの積雪がありました。◆この天候の影響で、樹木の倒伏、テレビアンテナの倒壊、家屋の一部破損等が起きましたが、とりわけ農作物の被害は甚大で、パイプハウスやトンネルハウスが損傷を受け、バンナムやカボチャ、スイカ、ソラ豆などが傷つきました。中でもバンナムは広範囲にわた

り被害を受け、所によっては全滅に近い状態でした。◆昨夏の6号台風が続いての被害、農家の皆さんの必労は計り知れぬものがあつたと思われま